

平成 20 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	普及	題名	直播栽培における水稲中期除草剤「ペノキススラム水和剤」の使用時期	
[要約] 一成分でノビエ及び広葉雑草全般に効果の高い、水稲用中後期剤「ペノキススラム水和剤」の直播栽培での使用時期は、5月初旬播種では「播種後47日頃」から、5月中旬播種では「播種後40日頃」からが目安である。				
キーワード	水稲	除草剤	一成分	プロジェクト推進室(水田農業)技術部作物研究室

1 背景とねらい

直播栽培の普及を図る上で、雑草防除は大きな課題であるとともに、農薬成分数がより少ない農薬が求められている。

このような中で、新たに、一成分で、ノビエ及び広葉雑草全般に効果の高い、水稲中期除草剤が、移植と直播で使用可能となった。しかし、直播栽培では、播種期により稲の葉齢の進展が異なるため、散布適期の把握が困難である。そこで、直播栽培における水稲中期除草剤「ペノキススラム水和剤」の使用時期の目安を明らかにする。

2 成果の内容

- (1) 直播栽培での本剤の使用時期は、稲6葉期以降であり(表1) 播種後日数を目安にできる。5月初旬の播種では、播種後47日頃から、5月中旬の播種では、播種後40日頃からとなる(図1)。
- (2) 直播栽培では、一発処理剤との体系処理で使用する(図2)。
- (3) 本剤は一成分で、5葉期までのノビエ、及び広葉雑草全般に高い効果が期待でき、ノビエに対する残効は10~30日程度である(表2)。
- (4) 雑草への吸収部位は茎葉部、茎葉基部、根部であるため、適度な土壤水分がある場合は、茎葉散布時に土壤に落下した薬剤も根部から吸収されるので、効果が安定している(表2)。

3 成果活用上の留意事項

- (1) 平成21年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針の留意事項等を参考に指導すること。
- (2) 作用機構は、スルホニルウレアと同じであるが、阻害様式が異なることから、スルホニルウレア抵抗性を示すホタルイ、アゼナ及びコナギについても効果が認められている。ただし、今後、抵抗性雑草が発生する可能性があるため、ペノキススラム水和剤の前に使用する初期剤及び一発処理剤も含め、他薬剤と2~3年ごとにローテーション使用することが望ましい。
- (3) 本剤は、次の点に注意して使用する。
 - ア．前処理剤後に雑草が残った場合に使用する。
 - イ．使用適期を十分に確認した上で、落水後茎葉散布し、散布後、少なくとも3日間は水を動かさない。
- (4) 低温により出芽や生育が遅れる場合は、稲が6葉期に達するまでの日数が上記日数より長くなることもある。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者 県下全域
- (2) 期待する活用効果 水田雑草(直播栽培)の効果的な防除が可能となる。

5 当該事項に係る試験研究課題

(807-1000)水稲作用除草剤第2次適用性試験 [H14~22, 民間委託]

6 研究担当者 日影勝幸・林尻雄大・渡邊麻由子

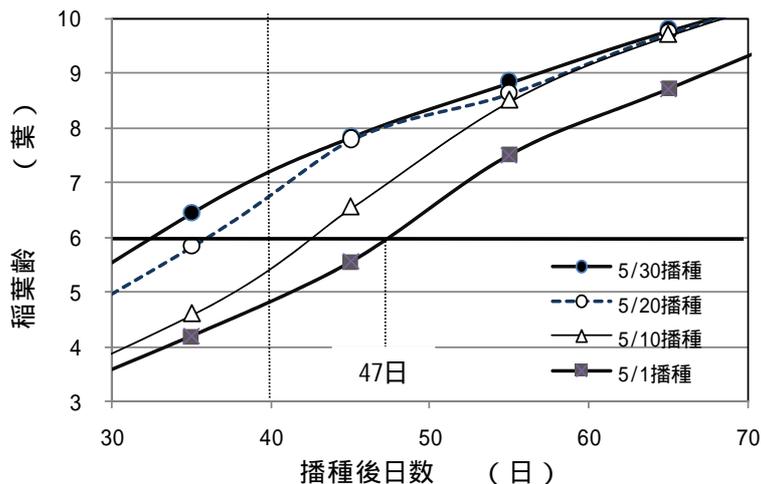
7 参考資料・文献

- (1) 岩手県農業研究センター 平成16,17,20年度水稲関係除草剤試験(適2)成績書。
- (2) 岩手県農業研究センター 平成18,19年度試験成績書(農産部水田作研究室)。
- (3) 新規水稲用除草剤ワイドアタックSC 植調 Vol42(2).2008.

8 試験成績の概要（具体的データ）

表1 使用基準と使用方法（平成20年11月30日現在）

区分	直播栽培（中期剤）	【参考】 移植栽培（中期剤）
商品名	ワイドアタック SC	ワイドアタック SC
有効成分（含量%）	ペノキスラム(3.6)	ペノキスラム(3.6)
本県使用適期	稲6葉期以降、北イ5葉期まで（但し収穫30日前まで）	稲6葉期以降、北イ5葉期まで（但し移植後25~40日、但し収穫30日前まで）
使用量	100ml（希釈水量100L）	100ml（希釈水量100L）
処理方法	落水状態で雑草茎葉散布	落水状態で雑草茎葉散布
主な対象雑草	水田一年生雑草（北イ、カツラギサ類、広葉雑草等）、マツバイ、ホトイ、ウリカ、ミズガヤツリ、ハラモダカ、セリ、ヒルムシロ	水田一年生雑草（北イ、カツラギサ類、広葉雑草等）、マツバイ、ホトイ、ウリカ、ミズガヤツリ、ハラモダカ、セリ、ヒルムシロ、クワグワイ、モダカ



注1) 農研センター内、2006年、2007年データ平均
 注2) 4品種（ひとめぼれ、どんぴしゃり、あきたこまち、いわてっこ平均値）

図1 播種時期別播種後日数と稲葉齢の進展

播種期	播種後日数（目安）						収穫 30日前
	+0（播種）	+15	+20	+25	+40頃	+50頃	
5月初旬	ノ ビ エ	（始 2.0葉 2.5葉）・・・枯死・再生・・・・ 5.0葉以下					
5月中旬		（始 2.0葉 2.5葉）・・・枯死・再生・・・・ 5.0葉以下					
5月初旬	一発処理剤		雑草が残った場合			稲6.0葉以降～北イ5.0葉迄	
5月中旬	一発処理剤					稲6.0葉以降～北イ5.0葉迄	

図2 播種期の違いによる雑草の葉齢進展と適期防除体系（直播栽培）

注：ノビエの葉齢進展は2006年農研センター内ほ場データ。

表2 草種別殺草効果と殺草幅

剤名	残効期間（日）	一年生雑草			多年生雑草								
		北イ	マツバヤツリ	その他広葉	マツバイ	ホトイ	ハラモダカ	ミズガヤツリ	ヒルムシロ	アオミドロ表層剥離	クワグワイ	モダカ	シズイ
ワイドアタック SC	北イ以外10（北イは10~30）	5葉				5葉	5葉	増殖始	-	(×)	草丈20cmまで	草丈20cmまで	-
カクテルME液剤	北イ以外10~15（北イは残効なし）	4葉				4葉	6葉	増殖始	()	(×)		3葉	10~30cm

凡例 卓効、効果極大、効果大、×効果なし、-未確認